

所 信 表 明 要 旨

令和二年九月九日

令和二年九月定例市議会にあたり、今後の市政運営について所信の一端を申し上げ、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力をお願いするものであります。

加藤議員並びに吉井議員におかれましては、このたびの市議会議員補欠選挙において、めでたくご当選されましたことを、心からお喜び申し上げます。

私も、市民の皆様のご信託をいただき、市政運営を担わせていただくこととなりました。重責に身の引き締まる思いであり、境港市の次なる発展のために身を捧げ、邁進していく覚悟であります。

また、中村前市長におかれましては、徹底した行財政改革により自立・持続可能な財政基盤を築き上げ、「魅力と活気にあふれ、心豊かに、安心して暮らせるまちづくり」を進めるとともに、「連携と共栄」をキーワードに、中海・宍道湖・大山圏域での一体的な発展に尽力されました。

平成の大合併で単独存続の道を選択した本市の道筋をしっかりとつけるとともに、将来都市像として掲げる「環日本海オアシス都市」の実現に向け、着実に歩みを進められた十六年であり、その業績に対しまして、深く敬意を表する次第であります。

私は、「公正」・「利他の心」を政治信条に、これまでの「良いもの」は継続・発展させ、「変えるべきもの」はスピード感を持って大胆に変えていく姿勢のもと、

「高齢者に寄り添い、子どもたちを見守る。

となり近所が支えあい笑顔あふれるまち。」

「港湾、漁港、空港、水木しげるロードや海辺が賑わい、

市民や本市を訪れる皆さんの笑顔あふれるまち。」

そのような「日本一住みたいまち 境港」を目指し、次の八つの項目に重点的に取り組んでまいります。

初めに、「協働」と「共生」のまちづくりであります。

私は職員として、あるいはボランティア活動の一員として、地域のために自分たちができることを考え、活動している数多くの市民や市民活動団体、事業者の方々とともに、まちづくりに関わってまいりました。

これまで進展してきた「協働のまちづくり」の考えに、私も思いを同じくするところであり、今後の市政においても、こうした方々がさらに活躍し、地域課題の解決やよりよいまちづくりに向けた取り組みが一層活発となるように、積極的に支援してまいります。

また、子どもから高齢者まであらゆる世代、障がい者や外国人などすべての人々が、互いを尊重し合い、支え合う共生社会の実現を目指すとともに、中海・宍道湖・大山圏域の市町村など他の地域との共生、本市の発展を支え、誇りである海をはじめとする自然との共生など、共に生きる「共生のまちづくり」に取り組んでまいります。

次に、「人口減少対策」であります。

国内で少子化や東京一極集中が進む中、本市でも、死亡数が出生数を上回る自然減、転出数が転入数を上回る社会減がともに続いており、人口減少対策は喫緊の課題であります。

自然減の対策としましては、地域の宝である子どもを増やしていくため、「子育てするなら境港」を標榜した子育て支援の充実を図り、安心して子どもを産み、育てることができる環境づくりを推進してまいります。

産後ヘルパーの派遣や家庭訪問支援などによる身体的・精神的負担の軽減、保育料のさらなる引き下げや保育の質の向上を図るとともに、事業者の方々に短時間勤務の導入などを働きかけ、子育てをしながら働き続けることができる職場環境づくりを進めたいと考えております。

社会減の対策としましては、基幹産業の水産業などに直に触れ、学ぶ場を設けるなど、ふるさと境港への愛着を育む教育を推進し、進学等で転出しても、戻ってくる子どもを一人でも増やしたいと考えております。

現在、都市部を中心とした新型コロナウイルス感染症の拡大により、地方回帰の機運が高まりつつあり、移住にも関心が寄せられております。

夕日ヶ丘団地の定期借地権制度は、市外から移住された方の利用が約三割を占め、本市へ移住・定住される方を呼び込む上で、大きなアピールポイントとなっておりますが、加えて、将来自分の土地や住まいを残したい方向けに、貸し付けした土地を譲渡する新たな制度を創設いたします。

また、産業振興や創業支援、企業誘致などに取り組み、移住してこられる方の働く場の確保を図ってまいります。

次に、「支え愛による超高齢社会対策」であります。

高齢化が急速に進み、超高齢社会に突入した我が国において、本市も高齢化率が三十%を超え、高齢者の五人に一人が要支援又は要介護の認定を受けている状況であります。

本市では、フレイル予防にいち早く取り組み、自身で行うフレイルチェックにより心身の健康状態を把握し、「栄養・運動・社会参加」の三本柱の活動に自ら取り組むことができる仕組みづくりが進んでおります。

フレイルサポーターの皆さんの協力をいただきながら、フレイルチェックの普及をさらに進めるとともに、「いきいき百歳体操」や「高齢者が気軽に集まることができる居場所づくり」などの市民主体による取り組みをより一層広げ、健康寿命の延伸を図ってまいります。

また、地域で暮らす人々の「つながりを大切にした、顔の見える地域づくり」を進めることは、日常生活における支え合いのみならず、災害などいざという時の迅速な支え合いにも結び付くと考えます。自治会による買い物支援や支え愛マップの作成などの「支え愛活動」を市内全域に広げてまいりたいと思っております。

この他、認知症対策などにもしっかりと取り組み、地域の「支え愛」により、高齢者の方々が住み慣れた地域で、元気で安心して暮らし続けることができるように、地域包括ケア体制の構築を進めてまいります。

次に、「さかな・鬼太郎・港を生かした産業振興」で
あります。

本市の大きな強みである、重要港湾・境港、特定第三種漁港・境
漁港、国際空港・米子鬼太郎空港の「三つの港」、そして全国有数の
水揚量を誇る水産資源、水木しげるロード・海や海辺などの観光資
源をしっかりと生かし、産業振興に取り組んでまいります。

本市の発展には、「さかなと鬼太郎のまち 境港」の両翼を担う水
産と観光の振興が欠かせないと思っております。

水産振興につきましては、高度な衛生管理が隅々まで行き届いた
市場として、昨年六月に陸送上屋・一号上屋が供用開始され、水揚
げされる多種多彩で新鮮な水産物に、安全・安心という新たな付加
価値が加わりました。

二号上屋の新築に向けた工事も進む中、鳥取県や水産業界の方々
とともに、全国に向けた「魚・加工品・産地」の売り込みにしっか
りと取り組むほか、さらなる付加価値の向上を図り、境港ブランド
を日本一のブランドに育ててまいりたいと考えております。また、
水産物の資源保護が加速する中、全国に流通する境港サーモンのよ
うな「つくり育てる漁業」を積極的に支援してまいります。

観光振興につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、これまで経験したことのない転換点に立っております。これからは、安全が大きな鍵となり、観光客の方々・観光地で働く方々、双方の安全を守ることが求められます。

水木しげるロードや市内の観光・水産施設は、徹底した感染防止策を講じており、そのことを積極的に情報発信していくとともに、お越しになる際には、しっかりとした対策を取っていただくこともあわせて呼びかけ、賑わいを取り戻したいと考えております。

水木しげる記念館については、あり方検討委員会の提言に沿って、建て替えを行う考えであり、場所や整備手法などの検討を進めてまいります。

また、これらの観光資源に加え、新たに誕生した境夢みなとターミナルや弓ヶ浜サイクリングコース、さらに美保湾についても、中海・宍道湖・大山圏域の観光資源として利活用を図り、広域での観光を推進してまいります。

圏域にお越しになる観光客の方々の「空の玄関口」である米子鬼太郎空港においては、新型コロナウイルス感染症の収束状況を注視しながら、鳥取県や関係機関と連携し、国際線の早期運航再開を働きかけるとともに、国内線もあわせ、新たな路線の開拓に挑戦したいと考えております。

地域産業を担う人材の確保につきましては、水産業においては、就業希望者の研修等に対する支援を充実し、農業においては、就農希望者に研修、農地、設備そして住宅をパッケージにして支援し、担い手を育成してまいりたいと考えております。

また、多くの外国人材の方々が、水産関連業を中心に本市の産業を支えております。日本語教室や交流事業の推進を図り、地域社会の一員として安心して生活できる環境をしっかりと整え、人材の確保につなげてまいります。

企業誘致につきましては、太平洋側で想定される災害からのリスク分散の視点も踏まえ、「三つの港」をはじめとする圏域が持つ強みを生かし、誘致活動に取り組んでまいります。

なお、本市においては、竹内工業団地の進出可能な区画が埋まりつつあり、民間の未利用地についても、小規模な用地が中心で、企業のニーズに十分応えられない状況であります。今後の経済や企業の動向なども注視しながら、新たな工業団地の造成に向けた検討を進めてまいります。

次に、「自然環境・生活環境対策」であります。

白砂青松の弓ヶ浜、沿岸漁業やマリンスポーツの盛んな美保湾、ラムサール条約に登録されている中海など、本市は豊かな自然環境に囲まれております。しかしながら、地球温暖化やそれに伴う異常気象、プラスチックごみによる海洋汚染などにより、現在、その環境は危機に瀕しているところであり、本市の基幹産業である水産業にも、影響が及んでおります。

他に誇れる美しい自然環境を守り、後世に引き継いでいくためには、市民一人ひとりが自分事として、自らができることに一つひとつ取り組んでいくことが重要であり、日々の暮らしで実践していただくように積極的に啓発し、私も率先して行動してまいります。

また、この度の選挙戦において、市内を隅々まで自分の足で歩き、数多くの空き家を目にしましたが、倒壊による事故の危険性はもちろんのこと、不法投棄などの温床にもなっており、市民の皆さんは大きな不安を抱いていることを痛感したところであります。

工夫次第で利活用できる空き家も見受けられ、地域活動の場や福祉施設、あるいは企業誘致や移住にもつながるサテライトオフィスなど、多様な選択肢が考えられるところであり、地域の特性なども踏まえ、様々な場面を想定した利活用策の検討を早急に進めてまいります。

一方で、利活用が困難な空き家の解体を促進するため、解体費用の助成対象を特定空家以外にも拡充したいと考えております。

次に、「中海・宍道湖・大山圏域の高規格幹線道路等の早期実現」であります。

圏域で高規格幹線道路等の整備が進むことにより、圏域共有の財産である「三つの港」の機能が最大限に引き出され、人流・物流が一層活発になり、産業振興や企業誘致、広域観光などの進展が期待されるほか、圏域で暮らす住民にとっても、移動の利便性が大きく向上します。圏域には様々な業種の企業が立地しておりますが、こうした企業が通勤圏内となり、一つの生活圏の形成にもつながると考えております。

米子・境港間の高規格幹線道路は、昨年初めて、鳥取県と本市・米子市・日吉津村の四者が揃って国に早期事業化を要望するなど、大きな一歩を踏み出したところであり、中国横断自動車道岡山米子線の四車線化の早期実現とあわせ、関係自治体で一丸となり、国に強く働きかけてまいります。

また、境港出雲道路の全線完成についても、連携して取り組み、圏域内を「8の字」に結ぶ高規格道路網の早期実現を目指してまいります。

次に、「未来につけを回さない行財政運営」であります。

これまでの徹底した行財政改革と規律ある財政運営の結果、本市の財政状況は、改革に取り組む前と比較し、臨時財政対策債を除く市債残高が約六十%減少し、基金残高は約八十%増加するなど目に見える形で大きく改善しました。

しかしながら、少子高齢化の進行に伴い、社会保障関係経費が増加する中、新型コロナウイルス感染症に係る対策経費の増大、加えて、経済活動の停滞による市税収入の減少も懸念され、財政状況の先行きは不透明な状況であります。行政コストの削減を徹底するとともに、企業誘致や移住促進などにより自主財源の確保を図るなど、未来につけを回さない財政運営を行ってまいります。

また、年々職員の業務量が増し、内容も複雑化しているところであります。ICTなどの活用による業務の効率化を進め、市民の皆さんと向き合う時間を増やし、サービスの向上を図るとともに、組織の見直しや職員の効果的・重点的な配置を進め、公約に掲げる施策の推進を図ってまいります。

最後に、「新型コロナウイルス感染症対策」であります。

新型コロナウイルス感染症は、瞬く間に世界、そして国内で感染が拡大し、生活や経済に底知れない影響をもたらしております。

まずもって、感染予防の取り組みにご協力いただいている市民の皆さん、厳しい経営環境において奮闘されている事業者の皆さん、そして、感染リスクと向き合いながら、市民生活を支えておられる医療従事者をはじめ、すべてのエッセンシャルワーカーの皆さんに深く敬意を表しますとともに、心から感謝申し上げます。

県内でも感染者が相次いで確認されている中、社会経済活動の回復にはまだまだ時間を要するところであり、長期的な視点に立った息の長い対策が必要と考えます。今後も様々なニーズや現場の声を拾い上げ、国や鳥取県の施策に加え、本市独自の施策も講じてまいります。

新型コロナウイルス感染症との闘いにおいては、一人ひとりが気を緩めることなく、引き続き感染予防に取り組んでいくことが何より重要であり、「新しい生活様式」の実践と定着を図ってまいります。

また、闘う相手は、新型コロナウイルス感染症であり、人ではありません。感染者や医療従事者の方々などに対する誹謗中傷を決して許さず、差別や偏見のない社会の実現に向け、市民の皆さんとともに取り組んでまいります。

結びに、新しい令和の時代を迎え、本市は、砂漠の中のオアシスのように、人やもの、情報など様々なものが行き交い、その中で人々が潤いや安らぎを感じながら、安心して暮らせる「環日本海オアシス都市」の実現に大きく近づきました。

しかしながら、年初には想像もつかなかった世界規模のコロナ禍に見舞われ、国内外との活発な人の行き交いがなくなり、水木しげるロードは昨年の賑わいが嘘のように入込客数が大きく落ち込むなど、状況は一変しました。

大変厳しい時期を迎えておりますが、市民や事業者の皆さんの困りごと、悩みごとについて、一緒になって考え、一つひとつ解決してまいります。人は不安が安心に変われれば、自然と笑顔になります。笑顔一丸、皆さんとともに境港の未来を切り拓くため、全力で取り組んでまいります。

議員並びに市民各位の一層のご理解とお力添えを賜りますよう、重ねてお願い申し上げます、私の所信の表明といたします。